

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2026年4月

第144号

主な予定

4月11日(土)

9:00~13:00

東葛自然観察会

6月5日(金)

千葉大学園芸学部

「環境緑地学実習」

こんぶくろ池保全活動報告会

3月29日(日) 東京大学柏キャンパス環境棟5階講義室

こんぶくろ池自然博物公園内にて行われる保全活動及び調査・研究活動の報告の場として、「こんぶくろ池保全活動報告会」を開催していますが、NPOと東京大学及び千葉大学のアドバイザーの先生方をはじめ、柏市公園緑地課の職員の方々、三井不動産(株)のご担当者様など、今年は総勢30名超が参加し、大変有意義な意見交換ができました。

今回の幹事を務めていただきました東京大学の寺田先生をはじめ、ご準備、ご参加いただきました皆様にこの場を借りてあらためて御礼申し上げます。

発表された内容については当日配布された要旨集に掲載されておりますが、参加できなかった方もいらっしゃると思いますので、順次こんぶくろ池通信内で掲載していきます。



こんぶくろ池自然博物公園の水環境

～2025年度 湯水・粘土層～

はじめに

気象庁によると、令和7年夏（6～8月）の日本の夏平均気温偏差は3年連続で最も高い記録となり、また、多くの地方で早い梅雨入りに続き、過去最も早い梅雨明けとなり7月は少雨が顕著だった。我孫子アメダスの記録から年降水量と日平均気温をグラフ化したところ、ここ数年の年降水量の少なさと気温上昇が著しく、こんぶくろ池自然博物公園では夏に植物による蒸散量と、湿性環境からの水の蒸発量増加による地下水位の低下が推測される。また、アオコを確認した時期も記した（図1）。これまでに、比較的年降水量が少ない年にアオコの発生を確認している。

池の湯水

8月以降こんぶくろ池、弁天池、ふじ池が干上がる状況が続いた（図2、3、4）。地金堀でも木道付近より下流が干上がった。こんぶくろ池では、水位維持のために北側排水路から汲み上げた水を浄化装置に注水し続けている（泥上げのために12月末以降は注水を停止し曝気のみ）。注水速度は浄化装置の処理能力に合わせ約10L/分（図5）。2013年度こんぶくろ池保全活動報告会要旨の記録では2010、2013年には猛暑による湯水で40～60日間、2012年には短期間、管理棟前の井戸水をこんぶくろ池に注水している。

図1 年降水量と日平均気温の変化（我孫子アメダス）

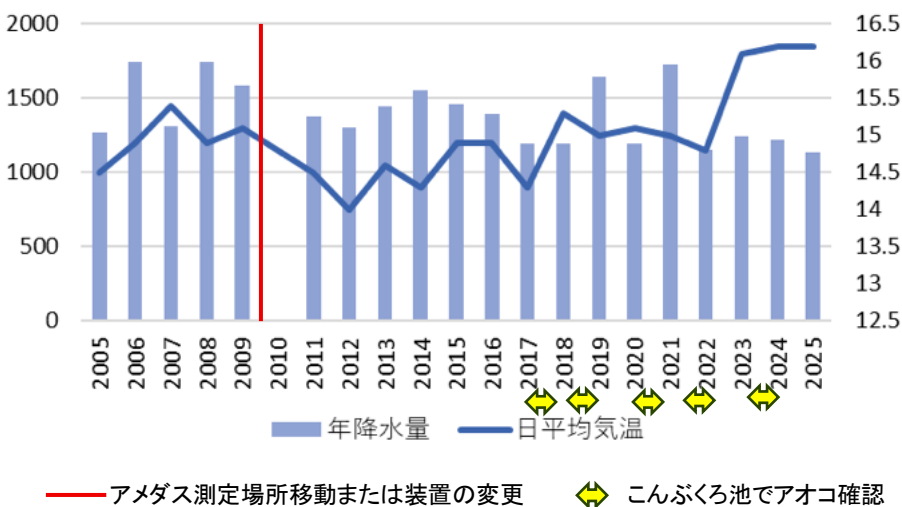


図2 弁天池 2025/10/21
ひび割れ、植物が覆う



図3 ふじ池
2025/9/27



図4 こんぶくろ池 2025/8/31
動物の足跡が見える



図5 浄化装置への注水 2025/12/7



泥上げ

例年、降水量が少ない1月に弁天池の湧水口付近、弁天水路、こんぶくろ池湧水口付近で主に岸からの泥上げや落ち葉かきを、こんぶくろ池内北（西から浄化装置からの水が流入し、東方向へ池の水が出て行くエリア）では池に足場を入れて泥上げを実施してきた。2025年度は渇水のため池や水路に入って12月から泥上げを実施した（図6、7）。3月1日の時点で、水深測定用のメジャーの0の位置が水面より約5cm上にあったので、メジャーを張った杭を約10cm強打ち込んだ（図7、8）。

図6 泥上げ 2026/1/20



図7 泥上げ 2026/3/1



図8 水深測定メジャーの0を池の底に合わせる 2026/3/1



こんぶくろ池の水深

2023年2月からNPOの当番（土日祝日に当番業務を実施）がこんぶくろ池の南西に設置したメジャー（図6、8）で水深を記録している。水深と降水量の関係を示す（図9、10）。2024年度は8月と2月に浅くなったが、ほぼ水面が保持された。2025年度は、8月末以降、池に水がない景観が続いた。

図9 こんぶくろ池の水深（2024年度）

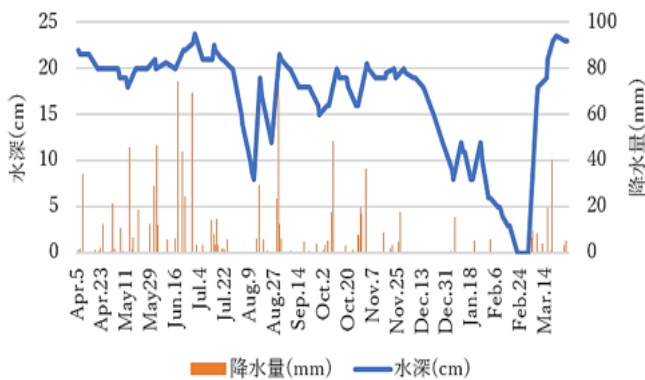
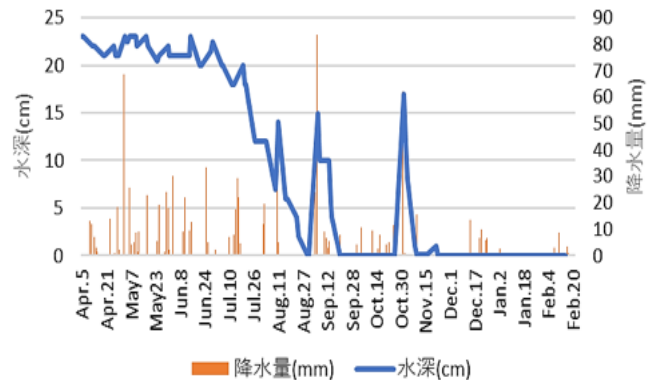


図10 こんぶくろ池の水深（2025年度）



浅い粘土層の露出

2026年2月22日の泥上げ作業中、こんぶくろ池南西寄りにある「こんぶくろ池」看板の前あたりで粘土層らしき層が露出したので、それ以上深く掘る作業を中断した。層は20cmほど掘ってもまだ下に

続いており、層理面は池の中心方向に下がっていた。層理面から地表面までの長さを簡易的に測ったところ約 80cm だった (図 11)。

粘土とは直径 $1/256\text{mm}$ (約 $4\mu\text{m}$) 以下の碎屑物。採集物を顕微鏡で観察すると粘土ほどの粒が観察できた (図 12)。採集物は表面の光沢が長時間保たれ難透水性である可能性が示された (図 13)。

「こんぶくろ池」看板付近の標高は比較的低いのが、地表から 1 m に満たない深さに難透水性の層の存在が示唆された。

図 11 層理面-地表面は約 80cm



図 12 光学顕微鏡像 400 倍 2.5 μm /目盛



図 13 表面の光沢



文責 上田真佐江

八手でないのにヤツデ

橋本谷 弘司



ヤツデ

当園でもヤツデを見ることができます。常緑低木で別名テングノハウチワ (天狗の羽団扇) と言われています。葉の形から連想されたものだと思いますが、葉は直径 20~40cm と大きく、掌状に深く 5 裂から 11 裂と奇数に切り込まれています。稀には 8 裂もあるとのことですが、お目にかかったことはありません。

八と言う数字は「末広がり」で縁起の良いことで表現されとのこと。

古人は魔除けの意味で庭に植えていたと言われています。また、昔の汲み取り便所の近くに植えられていたのは蛆虫殺しにヤツデの葉を使っていたからだそうです。

また、葉を乾燥させたものは生薬になり去痰などの薬として用いられ、葉を刻んで風呂に入れるとリュウマチに効果があるとされています。

ヤツデの葉は上からくる太陽の光が下の葉までできるだけ当たるように、葉柄の長さ、茎の回りに付く角度、葉の形などを工夫しています。このことから比較的暗いところでも育つ秘訣かも知れません。



5 裂の葉



7 裂の葉



9 裂の葉



11 裂の葉 (生態園にて)



花 (11~12月)



若い実 (3月)

新入会員紹介 作田 善久さん



参加動機：昨年11月末に柏市に転居しました。当地で取り組めるものの一つとして本会に入会します。

趣味・好きなこと：ソフトテニス、自然観察

貢献できそうなこと：公園整備、調査（動植物、鳥など）、事務

取り組んでみたいこと・分野：動植物等保護のための環境整備

ひとこと：腰痛のため力仕事は難しいですが、協力させていただきます。